

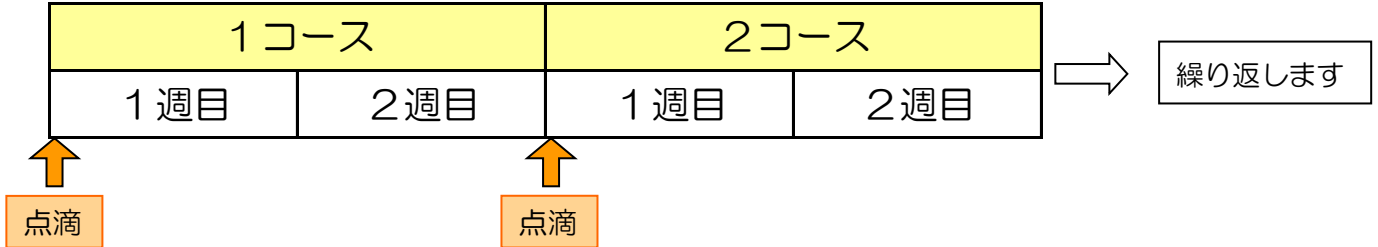
# ベクティビックス療法について

## 1. 治療のながれ

### 治療スケジュール




通常「2週間」を一区切り（1コース）として治療します。

副作用の程度や体調によって治療計画を変更することがあります。



### 点滴スケジュール

点滴時間「約 135 分」 患者様の状態に応じて長くなることがあります。

薬品名	点滴時間	薬効
 生食 50ml +デキサート +ポララミン	30分	ベクティビックス投与に伴うインフュージョンリアクションを予防します。 デキサート：副腎皮質ホルモン（ステロイド） ポララミン：抗アレルギー剤
 生食 50ml	15分	ベクティビックス投与のため点滴ルートを洗い流します。
 生食 100ml+ ベクティビックス	90分	細胞増殖する因子を抑えることで抗腫瘍効果を示します。

点滴順序

血液検査の結果や問診による自覚症状の有無を確認し、化学療法実施の決定を医師が行います。この他にも輸液等を使用することがあります。

## 2. 予想される副作用



- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「自分でわかる症状」と「血液検査などでわかる症状」があります。

**副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。**

### ▼ 「自分でわかる症状」

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
皮膚障害 にきびのような発疹 皮膚の乾燥やひび割れ 爪の周りの炎症	保湿をするように心がけてください。 日光をなるべく避けるようにしてください。 手足への刺激（温めすぎ、締め付けのきつい衣服、長時間同じ体勢でいるなど）は避けてください。 症状に応じて飲み薬や塗り薬などを使用します。



副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
アレルギー反応 (インフュージョンリアクション) 	薬剤投与中、投与後に起こることがあります。 発疹、悪寒、発熱、呼吸苦、めまいなどの症状が出現することがあります。 症状が出現時は、ステロイド剤と抗アレルギー剤で対応します。
下痢 投与直後から7日目頃 	普段の便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛が続く場合や、下痢の回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 水分の制限がない場合はこまめに摂取するよう心がけてください。
吐き気・嘔吐・食欲不振	電解質のバランスが崩れた場合に出現することがあります。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。
眼障害 結膜炎、かゆみ、目やに等	症状に応じて抗菌剤等の点眼液を使用します。 洗眼することで症状が軽減することがあります。
循環器障害	頻度は少ないですが、胸が痛い、圧迫感がある、苦しいなどの症状が現われることがあります。
間質性肺炎	空咳、息切れ、発熱など 症状を感じたら受診し、適切な治療を受けてください。

### ▼「検査でわかる症状」



定期的検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
低マグネシウム血症	血中のマグネシウムの値が減少します。 減少する事で、嘔気・嘔吐、食欲不振、脱力感、眠気、筋肉の痙攣・ふるえなど症状が出現する事があります。
白血球 赤血球 血小板 腎機能 肝機能 などの項目も問題ないか確認していきます。	

ここに書いてある以外の副作用が現れるかもしれません。普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。  
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。

